

レ・クレドール ジャパン会報誌 “キー・ニュース”

Les Clefs d'Or Japan

Key News



2025年 第72号

発行：今泉愛子

編集：嵯峨崎のぞみ 米谷紗央里 増田悟

Website : lesclefsdorjapan.com



Les Clefs d'Or Japan



[lesclefsdorjapan](https://www.instagram.com/lesclefsdorjapan)

Getting to know our members!

アンダーズ東京
チーフコンシェルジュ
増田 悟

コンシェルジュ歴 22年
レ・クレドール歴 1年半

ホテルのハイライト

弊社アンダーズ東京 虎ノ門ヒルズは、虎ノ門ヒルズの一部（高層階37階・47～52階）に位置するラグジュアリーライフスタイルホテルです。モダンなデザインの中に日本（和の）の美を取り入れた静かな館内が特徴です。客室からは、東京タワーや皇居、レインボーブリッジなどのランドマークを眺めることができます。ホテル内には、様々なダイニングが楽しめるレストランやバーがあります。

特に52階のルーフトップバーでは、美しい夜景と共に外気に触れながら、ミクソロジーカクテルを味わうことができます。その他にも、スパ、フィットネスセンター、スイミングプールなどの施設も充実しており、その中でも炭酸泉はとても人気があります。

一番好きなレストラン

肩肘張らず、カジュアルにお食事ができるレストランが好きです。おすすめのレストランはたくさんあるのですが、その中でも特に焼肉レストランの「焼肉秋元」が大好きです。私が生まれ育った町「小岩」に家族経営で古くから焼肉店を営んでおり、いつも地元の人達で店内は賑わっています。テレビの取材は、大将が断固として拒否。無煙ロースターなので煙の嫌な臭いはほとんどつかず、お肉のクオリティもとても高いです。下町ならではの価格帯と、メガジヨッキでいただくビールは小岩焼肉秋元ならではの！友人との集まり、会社の同僚、交流会などでたくさんお世話になっている私の大好きなレストランです。



とっておきの場所

わたしのとっておきの場所は、ハワイのホノルルです。初めてハワイに訪れたのは卒業旅行の時でした。飛行機の窓からハワイの島が見えたときに何か特別な感覚に包まれたことをいまでもよく覚えています。それはなんだかとても懐かしい感覚と何度もみている景色のようにも感じました。それからは、気づけば毎年2回はハワイを訪れていました。なぜそんなにハワイばかり行くの？何が面白いの？何がいいの？と聞かれる度に、毎回同じ回答をする私。優しい風、南国のお花の香り、虹、美しい海、山、大きな太陽、ゆっくりと流れる贅沢な時間。全てが私にとって居心地の良いものです。親と一緒に初めて海外旅行に行った場所もハワイでした。ハワイ滞在中はよく歩き、食べて、笑って、たくさん話しました。

休日の過ごし方

作ってみたい料理にチャレンジしたり、体を動かしてジムやテニスをしたり、地元の銭湯に行ったりしています。また、友人や家族と一緒に食事や買い物に出かけて楽しい時間を過ごすことも大好きです。もちろんお家でのんびりと過ごすこともあります。



2025年日本国際博覧会 EXPO2025 大阪関西万博 ヨルダン館 5月定例会

5月の定例会は、2025年4月13日から10月13日まで大阪・夢洲で開催されている

「2025年日本国際博覧会（通称：EXPO 2025 大阪・関西万博）」のヨルダン館2階にあるプレゼンテーションルームにて開催されました。

EXPO 2025 大阪・関西万博は「未来社会のデザイン」をテーマに、技術革新や社会課題の解決策を探る国際的なイベントであり、AIや再生可能エネルギー、VRなどの最先端技術が紹介され、持続可能な開発目標（SDGs）に関連した取り組みも行われています。150カ国以上が参加し、200を超えるパビリオンが出展されており、世界中の文化や技術が一堂に会する貴重な機会となっています。

海外パビリオンの一つであるヨルダン館は、レ・クレドール ジャパンのメンバーである小野山麻子氏が運営に携わっており、今回の定例会では特別にヨルダン館を訪問させていただく機会を得ました。

定例会の前半では通常の報告事項が行われ、後半にはヨルダン館の館内見学を実施しました。館内には、実際に砂漠地帯ワディ・ラムから運ばれた赤い砂22トンが敷き詰められており、来場者はそのきめ細かな砂の感触を裸足で体験しながら、360度映像によってヨルダンの壮大な風景を楽しむことができました。

見学後には、Ms. Shifa Zghoul Haddad氏によるプレゼンテーションが行われ、スライドを交えて、ヨルダンの歴史や文化、食についてご紹介いただきました。四季があり雪の降る地域も存在するなど、砂漠の国という一般的なイメージとは異なる新たな一面に、多くの参加者が興味深く耳を傾けていました。昼食には、シェフ特製のヨルダン料理を詰め合わせた特別ランチボックスが振る舞われ、参加メンバーはその豊かな味わいを楽しみました。ヨルダンの魅力を存分に体感し、すっかりファンになった一日となりました。

運営に携わっている小野山氏からは、以下のようなコメントもいただきました。

「大阪・関西万博のヨルダン館には、所属ホテルからの許可を得たうえで、以前より兼業している株式会社モダニス・アンド・カンパニーとして広報および運営に携わることとなりました。そのため、ホテルの公休日を利用して勤務に入っています。まさか自分が万博に関わることになるとは夢にも思っていませんでしたが、ぎりぎりまで開幕準備に奔走し、なんとか初日を迎えることができました。そして開幕からわずか約3週間後には、パビリオンにとって

最も重要なイベントである「ナショナルデー」が開催されました。

文化も生活習慣もまったく異なるヨルダン人スタッフと協力し合いながら、日々来館者のニーズを学び、柔軟に対応を重ねていく万博の現場での経験は、まさに自分の生活の一部となっています。こうした貴重な体験を通じて得られる学びは、所属ホテルでの業務にも大きく還元できるものであり、大変意義深いものと実感しています。」



定例会報告

6月

6月定例会は、アマン東京内の会議室でおこなわれました。

今泉会長をはじめ、各コミッティーメンバーより現在の取り組みや注目すべきトピックスについての報告が行われ、活発な情報共有の時間となりました。

続いて、来年一月に予定されているセミナーに関して、参加メンバー間で意見交換が行われました。

「どのようなテーマが最も心に響くのか」「参加者全員が楽しみながら学べる内容とは何か」唯一無二のセミナーを創り上げるべく、前向きで熱意あふれるディスカッションが繰り広げられました。

第2部では、公益社団法人 福井県観光連盟 主任 清水 様、ならびに一般社団法人 SOE 専務理事 濱本 様、佐野 様をお迎えし、9月ならびに12月に予定している福井県視察についてのご案内をいただきました。

福井県のインバウンド需要を高めるために、我々がどのようなアプローチを取るべきか。地域と連携し、互いに手を取り合いながら、持続可能な観光の未来を共に築いていくことを目指します。

